

内陸地震とは

1. 境界型とは、断層近傍のひずみの増加する仕組みが違う
2. 震源の深さは、数km～15kmと浅く、直下にある
3. すべり量は3m程度が多く、長大な断層ほど大きい
4. 活断層は、すべてが明らかになっていない。地震で確認されるものもある。
5. 地表にずれが残るような大地震の発生間隔は数百年から数万年程度。平均で1400～1500年程度らしい。
6. なぜ、起きるのかは、実はよくわかっていないが、最近地震起こす時は脆性的で、起こさないときは弾性的とみなす上部地殻モデルが提唱されている。

1.内陸地震は怖い

- ①意外なところに、評価された確率0%でも発生する
- ②震源が浅いので、大きな被害が限られた範囲に出る。家屋は全壊またはそれに近いことが多い
- ③前兆が全くない、辻斬りにあうがごとし
- ④近くの活動に刺激されやすいが、広域には影響しない
- ⑤活断層が知られていないところで、大地震もあり

2.活断層の長期評価

平均活動が間隔が3000年の活断層では、計算上は現時点から30年間に起こる確率は $30/3000=1\%$
確率の重みは、個人、周囲の状況に左右される



- ①長期評価は数字にかかわらず、必ず活動するもの
と思うべし！
- ②高い確率については、可能な限りの対策を講じること！



長期評価＝災害社会への警鐘なり

3.備えについて

- まずは、どこに活断層があるのかを知る
- 地震があったら、避難するところをきめておく
- 発生したら、慌てずに、火事・ケガに注意
- 正しい情報で、正しい行動をする